

「生産性向上のための IT 活用の現状と
ものづくりマイスターに係わる好事例発表及び意見交換会」
～産学官連携による人材育成～

1 日 時 平成30年11月13日(火) 13:30～15:30

2 会 場 仙台国際センター 3階 白樫

3 参加者

(1) 好事例発表

① 『ものづくりマイスターを活用した人材育成について』

～技能五輪選手育成を通して～

株式会社青木製作所 取締役副工場長 古山 茂和

② 『生産性向上のための IT 活用の現状について』

～弊社プロダクト「Tibbo-Pi」を活用した IoT 事例～

株式会社コー・ワークス CTO 白田 正樹

(2) 意見交換会

【パネラー(順不動)】

宮城県第二工業高等学校 校長 今野 好彦

アンテック 代表 安部 隆雄 (ものづくりマイスター)

株式会社 ナナイロ

執行役員 ファストエンジニアリング事業部 事業部長

樋口 祐紀 (ITマスター)

【コメンテーター】

(公財)みやぎ産業振興機構

シニアアドバイザー 白幡 洋一

(前(株)ベガルタ仙台代表取締役社長 元東北リコー(株)代表取締役社長)

【コーディネーター】

宮城県ものづくり企業コーディネーター設置事業

統括コーディネーター 八島 和彦 (前 みやぎ工業会 専務理事)

(3) 展示・実演

「3Dプリンターの展示・実演」

やまがたメイカーズネットワーク 代表 大津 清

(4) 聴講者

44企業等81名

4 ものづくりマイスターに係わる好事例発表

好事例発表①『ものづくりマイスターを活用した人材育成について』
～技能五輪選手育成を通して～
株式会社青木製作所 取締役副工場長 古山 茂和

技能五輪全国大会を目指し、今まで2年間ものづくりマイスターに指導頂き挑戦したことで、社員は、技術的にも人間的にも大きく成長することができた。

若手技能者の育成には、技能五輪や技能検定に挑戦することが大切であることなどが発表されました。



5 生産性向上のための IT 活用の現状の好事例発表

好事例発表②『生産性向上のための IT 活用の現状について』
～弊社プロダクト「Tibbo-Pi」を活用した IoT 事例～
株式会社コー・ワークス CTO 白田 正樹

生産性向上のための IT 活用の現状を弊社プロダクト「Tibbo-Pi」を活用した IoT 事例について、実際に取り入れている企業の例を挙げ説明され、古い装置であっても、状態が見える化でき、生産性の向上につなげることが可能であることなどが、発表されました。



6 展示・実演

「3Dプリンターの展示・実演」

やまがたメイカーズネットワーク 代表 大津 清

県内企業等の協力を得ながら、手作りの3Dプリンターを工業高校生の生徒などが製作し、各学校に導入しており、導入後、創造的な学習活動を展開している事例の説明や3Dプリンターの展示・実演が行われました。

多くの参加者が興味を示し、手作りの3Dプリンターについて、質問が交わされるなど、初めての試みでしたが、大きな成果を得ることができました。



7 意見交換（パネルディスカッション）

次のような意見が聞かれました。

- ・工業高校では、教師の技量だけでは指導が難しいので、ものづくりマイスター制度を活用している。
- ・ものづくりコンテストに参加する生徒の動作、道具の使い方に無駄がない。課題に向かう表情に職人の姿が映されており、マイスターと教員の努力が相まってこそその成果。
- ・ものづくりマイスター制度は、学校の教育力を補完する制度として実効性がある。今後はITマスターの活用も考えたい。
- ・人材育成として技能検定、技能五輪を目標に指導するのに、企業の環境が必ずしも整っているとは言い難い。指導者、時間、工具、諸費用等、色々な課題がある。
- ・宮城県で技能五輪に出る企業は少なくなっている。また、宮城県工業高校は技能五輪等で優秀な成績を上げているが、県内に就職の受け入れ企業が少ない。
- ・中小企業では社内の指導体制が整わず、今年からマイスターの指導を受けている。高校生の時にマイスターの指導を受けていながら、就業後に会社の流れ作業に組み込まただけだとせっかくの技術をつぶしてしまう。企業でのマイスター活用はとても良い制度である。
- ・溶接は、わりと五感で行うところがある。感覚を鍛えるには、基本、基礎をきちんとやらなければならないが、県内でどう取り組んでいくか。技能五輪のように県内のみんなで取り組めることを考えるべき。
- ・技能五輪は参加者だけでなく、指導者、仲間もモチベートされる。見学にきた学生も然り。宮城県での開催を検討してはいかがか。
- ・ITを活用して伝統工芸品のこけしをプロデュースし、販促のコンサルティングにより、海外からの問い合わせも来るようになった。
- ・ITを活用した業務の自動化を目指しているが、ITは用語が難解なために導入が進まないのではないか。
- ・ITを活用した事業所の情報が少ない。IT活用事業所は、好事例としてもっとオープンにして欲しい。

- ・ものづくり現場の見える化をしたい。工作機械には新規投資しやすいのに、IOTは見積もりが難解で導入しづらい。
- ・IOTというと、インターネットにつなぐ必要性や危険性が浮かんでしまう。イントラネットにつなぐだけでも企業内の可視化、情報共有化ができる。その次にインターネットにつなげてよいのではないか。実験的に導入して、若い人に任せてはどうか。
- ・ものづくりマイスター、IT マスターを、徹底的に活用して、来年度は好事例の発表者が多く出ることを期待する。

8 全体総括

【コメンテーター】

(公財)みやぎ産業振興機構 シニアアドバイザー 白幡 洋一

(前(株)ベガルタ仙台代表取締役社長 元東北リコー(株)代表取締役社長)

ものづくりマイスター制度・ITマスター制度は優れた制度なので、多くの企業で活用して欲しい。

若い技能者の育成や生産性向上のためのITの有効活用には、時間もコストもかかるので、企業のトップのぶれない思いと支援が求められるとまとめられました。



9 おわりに

今回行われた「生産性向上のためのIT活用の現状とものづくりマイスターに係わる好事例発表及び意見交換会」において、地元で育てた人材が地元の企業で活躍し、経済発展に貢献するためにも、当制度の有効活用により、基礎・基本の伝承と若い人材育成が重要であることを共通認識することができました。